

令和4年度(令和3年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部半田市立図書館

教育部長 岩橋 平武

整理No	主要事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
33-1	図書館一般事務	なし	D	令和3年度は、コロナ対策を取りながら行事や講座等を再開することができた。しかしながら、定員を減らしたり開催を見送ったものもありコロナ前の状況には戻らない。今後、withコロナからコロナ終息に向け、どの事業に重点を置き、どのように事業を進めていくかを再検討する必要がある。また、幅広い世代、障がいの有無、国籍の違いなど多様なニーズに対応できるよう、情報収集・情報発信に努め、誰もが気軽に読書に親しめる環境づくりを進める必要がある。	改善 推進	コロナ対策に留意しつつ、より多くの人が安心して参加できる図書館行事をボランティア団体と協働で開催するほか、ボランティア養成講座を実施し、新たな読書推進の担い手の育成に努める。また、やさしい日本語を取り入れた案内等を作成し、外国籍市民を含め様々な方に来館いただけるような取組をしていく。子ども読書活動推進計画に基づき、発達段階に応じた取組を進め、本が好きな子どもを増やしていく。
33-2	図書館資料整備事業	あり	D	コロナ禍のもと来館者数の完全な回復にまで至っていないが、より分かりやすく本を探すための手段として、分類シールの一部変更や利用者検索端末での配架地図を表示させるなどのサービス向上に努めた。第二次半田市子ども読書活動推進計画の策定とともに、調べ学習に役立つ本や、古くなった良書の買い替えに努め、新本だけでなく児童書の充実を心掛けた。外出の自粛も余儀なくされる中で、効率よく本を予約・貸し出せる環境づくりをし、貸出点数をいかに増やしていくかが課題である。	改善 推進	利用者のニーズに合った図書資料を整備するとともに、電子書籍の利用拡大を図っていく。また、郷土資料の収集に努めるとともに、図書館が所蔵する貴重な郷土資料のデジタル化も準備し、紙媒体・電子媒体双方での情報発信ができるよう、知の情報基地としての機能の維持・拡張を行っていく。障がいのある方、高齢者、外国籍の市民、貧困家庭等にも配慮し、広い視野から読書の機会を拡充することができるよう、他課とも連携しながら利用促進を図っていく。
課等長	1次評価（令和3年度の総括評価）					
D	コロナ前と比較し、事業参加者数や貸出点数は少なくなっているが、感染症対策に留意しつつ行事を再開することができた。また、寄附金を活用した図書除菌機の導入や利用者端末に配架地図を表示させるなどのサービス向上に努めた。今後も、利用者が安心して利用できる環境づくりを行う。 令和3年度に策定した「第2次半田市子ども読書活動推進計画」に基づき、読書の好きな子どもを一人でも多く増やすことを念頭に置いた取組を実施するなど、計画の実効性を高めていく必要がある。また、デジタル化した資料の公開など、ICTの活用や、外国籍の市民へのサービスなどの課題にも取り組んでいく必要がある。					
部等長	2次評価（令和3年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）					
D	コロナ禍であったが、行事を徐々に再開し、事業参加者数や貸出点数が前年度と比較し増加したのは評価できるが、完全な回復には至っていないため、感染症対策に留意しつつ、本や図書館に親しめる事業を進めてほしい。また、「第2次半田市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちと本をつなぐ活動の充実に努めてほしい。 今後も、各種講座や様々なイベント等を通じて図書館の利用促進を図り、誰でも楽しめる読書環境を整備していくよう心掛けたい。さらに、貴重資料のデジタル化、ICTタグによる図書管理、自動返却機の導入等、ICTの活用を検討するとともに、郷土資料の収集や情報発信に注力して半田らしい特色を出すなど、コンセプトを持った魅力ある図書館づくりをしていくことが必要である。					